

立川共済病院 脳神経内科

① 病院概要

当院は設立当初こそ陸軍病院でしたが、早い時期より慶應義塾大学病院から医師の派遣を受けており、その昔から院長は代々慶應義塾大学関係者が就任しています。2021/4/1より国立がんセンター中央病院より片井均院長が就任されがん拠点病院を目指し職員は一丸となって頑張っています。つい先日、病院機能評価も無事にパスし安堵しているところです。立川市は八王子市に次ぐ多摩地区の中心地でもあり、立川駅周辺には様々な商業施設・大規模病院・公共施設が揃っています。慶應義塾大学病院とも一時間以内の距離にあり、沢山の非常勤医師のお力添えを頂いています。地理的な面も手伝って研修先としても大人気であり、2017年7月に現在の新病棟に引っ越してから入院数・患者数も右肩上がりが増えていきます。

② 脳神経内科の特徴

前任の太田晃一先生の奮闘により、パーキンソン病や認知症の中心的病院として認知されています。さらに東京都北多摩西部地域拠点型認知症疾患医療センターとして立川市、国立市、国分寺市、東大和市、武蔵村山市、昭島市の各クリニックより連日紹介を受け、一回目の非常事態宣言の期間を除けば、常に予約が一杯の状況です。森谷和徳診療部長、黄英文内科統括部長の指導のもと内科は一体運用されており、少ないスタッフでも生活の質が保てる環境が自慢です。周囲に災害医療センターや多摩総合医療センターなどの三次救急施設が充実していることもあり、超急性期・重症脳卒中に振り回されることなく神経内科疾患の診療に集中できることも特色です。近年は重症筋無力症や多発性硬化症といった神経免疫疾患が増えてきており、脳神経内科の三番目の柱になりつつあります。

③ スタッフ(専門分野)

1. 服部英典 脳神経内科部長兼認知症疾患医療センター長(パーキンソン病・認知症)
2. 久住呂友紀 内科医長(神経免疫疾患・認知症)